



広島東支部 広報だより

広島県看護協会広島東支部会員数

保健師	70人 (入会率50%)
助産師	30人 (入会率70%)
看護師	1,339人 (入会率57%)
准看護師	33人 (入会率 4%)
合計	1,472人 (入会率43%)

支部長挨拶

広島東支部長 堀江 玲子



2020年度 2021年度 看護協会広島東支部の支部長を務めさせて頂いております。支部の皆様には日頃より支部活動にご理解とご協力を賜り御礼申し上げます。今年、コロナ渦で中止していた研修会も、徐々に開催し、初の試みでWeb研修も開催致しました。新型コロナウイルス感染症の終息の兆しが見えませんが、社会が激変している今、支部活動を通じ、地域、保健、医療、福祉そして看護の連携を行い、2022年度も引き続き広島東支部活動にご支援とご協力お願い申し上げます。

令和3年度 東支部総会 リフレッシュ研修

日時／令和3年4月24日(土) 場所／東区総合福祉センター



令和3年度支部総会は感染対策に留意しながら、2年ぶりに対面にて開催することができました。支部総会后、交流事業としてリフレッシュ研修を開催しました。「癒し」をテーマにアロマセラピーを企画し、船津一美先生をお招きしました。演習で参加者全員が好きな香りを選択し、香りのロールオンボトルを作成しました。役員を含め41名の参加で、新型コロナウイルス感染症への対応で疲弊していた時期であり、心の癒しとなり、好きな香りですリラックスできる時間を提供することができました。



2021年度 役員紹介

支部長	堀江 玲子	JR広島病院
副支部長(連盟担当)	和田 朱美	マツダ病院
副支部長	勝田 佳民	安芸市民病院
幹事(総務)	大亀 彩子	済生会広島病院
幹事(財務)	小早川清美	太田川病院
幹事(社経)	田中 正志	安芸市民病院
幹事(教育)	蔵永 敦子	マツダ病院
幹事(教育)	間所 明子	太田川病院
幹事(教育)	松下 桂子	済生会広島病院
幹事(教育)	遠藤 泰子	看護協会訪問看護ステーション「ひろしま」
担当理事	萩原七帆子	安芸市民病院
事務	中原 麻裕	広島東支部事務所

!!よろしくお願ひします!!



病院のイチ押し看護師さん

▶ 済生会広島病院

私は、2019年に老人看護専門看護師の資格を取得しました。高齢者が体験している世界は、私自身も体験したことのない未知の世界です。高齢者がどのような人生を歩んできたか、本意は何かを引き出し、その方を理解するよう努めています。

現在、私は急性期病棟に勤めています。急性期病棟では、身体の不調や制限、環境の変化等によりせん妄を引き起こすことも少なくありません。せん妄が出現することで、ADLや認知機能が低下すること、身体拘束がなされることもあります。入院前の生活や本人の人となりを知っている訪問看護師や施設職員、ケアマネージャー等と情報共有し、できるだけせん妄を起こさないという目標に向けて取り組んでいます。

老人看護専門看護師 北木 弥生



また、食事が摂取できなくなり栄養補給の方法を検討することや、退院後の療養先を検討することもあります。私は、まず本人にどうしたいかを尋ねるようにしています。その際、意思決定能力があるか見極めること、本人がわかるように説明をすることを心がけています。意思決定能力がない場合も多くありますが、本人にとって最善は何かをチームで考えています。

これからやってくる2025年、さらにその先も、高齢者自身が「大切にされている」と実感できるような支援を目指しています。一人一人の方に関心を寄せ、日々のケアを丁寧に行うこと、また、老いや病と向き合う高齢者が人間らしく生きることができるよう支援していきたいと思っています。

▶ 太田川病院

これまで、痛みや苦しみを抱えたがん患者さんにたくさん出会い、その度に自分の未熟さから自分の看護の限界を感じていました。がん患者さんの痛みや苦しみに一緒にかかわらせていただくためには、まず専門的知識・技術を習得する必要があると考え、緩和ケア認定看護師を目指しました。

当施設では、これまで専門分野の医師・看護師が在籍していない状況の中、手探りの状態で緩和ケアの活動を始めました。上司や周囲からの助言があり、2020年緩和ケア委員会(医師、看護師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、リハビリ、栄養士)が発足し、全人的苦痛のアセスメントをチームで

緩和ケア認定看護師 山下 千乃



情報共有し、がん患者さんの苦痛症状を緩和できるよう支援しています。

私の役割は、がん患者さんの身体と心のつらさや苦しみを和らげることです。当施設では、がん治療のためADLが低下しリハビリ・療養目的で他施設から入院される患者さんも少なくありません。生きることをあきらめた人、また、がん治療をあきらめたくない人など、様々な思いを抱えておられます。私は、患者さんの痛みや苦しみを緩和できるよう真摯にかかわり、その人の支えになれるような存在でありたいと思っています。

▶ 広島県看護協会訪問看護ステーション「ひろしま」

私は、訪問看護の実践の中で、たくさんの認知症の利用者さんと関わり、その方々やご家族から多くの学びをいただきました。訪問看護を実践するうえで、認知症を切り離して考えることはできないと感じ、認知症看護認定看護師を目指し、2019年度に資格を取得しました。資格取得後、認知症疾患や看護についての知識を得たのはもちろんですが、改めて、社会にある認知症の人への倫理的な課題にも気づくことが

認知症看護認定看護師 遠藤 泰子



できました。認知症の人が安心して暮らせる社会は、障害のある人も含めた誰もが安心して暮らせる社会です。訪問看護師、地域の医療関係者、地域の住民の人々に、認知症を正しく理解していただき、認知症の人々が地域で安心して生活できる地域づくりができるような活動がしたいと思っています。

▶ JR広島病院

皮膚・排泄ケア認定看護師 平田 ふき子



現在私は、院内の褥瘡対策やストーマ外来・ストーマケアを中心として活動しています。

褥瘡についてはスキン・ケアや医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)、失禁関連皮膚炎(IAD)など、必要な知識がどんどん増えてきています。また、DESIGN-Rも数年ごとに改定されており、DESIGN-R2020では深部損傷褥瘡(DTI)や臨界的定着疑いなどの知識も必要となっています。

褥瘡はどの診療科の患者さんにでも起こりうるため、どんどん出てくる新しい知識や概念を吸収して褥瘡対策を行っていくためにはより多くの仲間が必要です。当院の看護師も常日頃より褥瘡対策に取り組んでいますが、より専門的な知識と技術を兼ね備えた看護師の育成も必要だと感じていまし

た。そこで、今年度より院内認定制度を立ち上げ、「JR広島病院 褥瘡ナース」

の育成を始めました。こだわりは、看護部の制度ではなく、病院の制度としたことです。制度について多職種参加の会議で検討や承認をしてもらうことで、院内の多くの職種に認識してもらうことができ、認定者のやる気を高めることも出来るのではないかと考えています。

この院内認定制度により、褥瘡看護の質向上が図れれば、今後は施設や在宅など、地域の褥瘡看護の向上にも繋がられる取り組みを「JR広島病院 褥瘡ナース」と共に行っていきたいと思っています。

▶ 広島市医師会運営・安芸市民病院

皮膚・排泄ケア認定看護師 白石 真里



私は2012年に皮膚・排泄ケア認定看護師を取得しました。取得後は看護実践の場を広げ、組織横断的に看護を行っています。各部署のスタッフと共に、患者さんのことを一生懸命考えて実践する時が一番看護を楽しんでいる瞬間です。また患者さんがケアを通して「よかった」「ありがとう」と言ってもらえた時にやりがいを感じます。

現在は2019年に新設された地域包括ケアシステム推進部に所属し、地域活動を主に行っています。地域で生活する患者さんの生活や歩んでこられた人生に触れる機会が増え、当たり前のことですが「人の生きる力」「生活する力」を強く感じています。看護師としてその力を最大限発揮できる看護を行おうと日々スタッフと自律した看護を目指し取り組んで

います。また、地域を支える医療・介護福祉サービスのみなさんとの関わりも増え、多職種連携の重要性も感じています。皮膚・排泄ケア

領域においては在宅支援をすることで地域の在宅スタッフと顔の見える連携がとりやすくなり、相談を受けることが多くなりました。さらに現在地域との連携を強化するため、ICTを用いた連携の仕組み作りにも取り組んでいます。

これからも院内はもちろんのこと、地域で安心して過ごせるお手伝いとして、「困ったことがあればいつでもご相談下さい」をテーマにフットワーク軽く看護を行っていきたいと思っています。

▶ マツダ(株)マツダ病院

皮膚・排泄ケア特定認定看護師 迫田 学



私は2016年に皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得しました。所属部署は外科・泌尿器科・皮膚科・消化器内科の病棟です。通常の病棟業務を行いつつ、認定看護師としては排尿自立支援や褥瘡対策チームの一員として、院内のラウンドや処置方法の検討、ストーマを保有している患者さんのセルフケア習得に向けた指導などを行っています。

2021年6月に創傷管理分野の特定行為研修を修了し、少しずつですが院内で特定行為を実践しています。

褥瘡やストーマケアを行う際に常に意識していることは、患者さんにケアの意図を伝えること、また、スタッフに対しては、夜間休日など私が不在の時でも同様にケアを提供できるよう、

分かりやすい言葉で記録に残すことです。

以前、広島県看護協会主催の「看護師の相互派遣研修事業」に参加し、訪問看護師さんに3日間同行させていただきました。病院では分からない自宅での患者さんの様子や生活の工夫を見ることが出来、貴重な経験をすることができました。その経験から、退院後の生活を考えたケアの提供や地域の看護・介護職の方々との連携の必要性を意識し行動するようになりました。

今後は院内のケアの質向上を目指すだけではなく、地域と連携を深めていくことで、退院後も患者さんが安心して生活していけるように活動していきたいと思っています。

研修報告 東支部研修会Web開催

日時：令和3年7月10日(土)

広島東支部研修は、広島市医師会運営・安芸市民病院の田本明美様を講師とし、7月10日「医療現場の接遇」をテーマに支部初のWeb研修として開催しました。研修後のアンケートでは、ホスピタリティやおもてなしの心など、新たな知識の習得に繋がった、今後の実践に活かしていきたいなどの回答が多く得られました。また、コロナ禍での研修がWeb研修という形で参加でき良かった、Web研修であれば参加しやすいなどの意見もいただいておりますので、感染症の影響下においても、研修を中止することなく安全に実施するひとつの方法だと感じました。

教育担当 間所 明子



研修報告 社会経済福祉研修Web開催

日時：令和3年9月25日(土)

昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、本年度に持ち越して、アンガーマネジメントについての研修を開催しました。研修開催当時も感染者数は減少しておらず、集合しての研修は困難と判断し、Webでの研修開催としました。心配していた通信トラブルもなく予定の33名全員が参加することができました。

講師にアンガーマネジメントファシリテーターである、中谷仁志先生をお招きし、怒りと上手に付き合う方法をテーマとして、怒りが生まれるメカニズムや怒りのタイプの自己診断による演習を交えて行いました。事例を用いた分かりやすい内容であり、誰にとっても身近な内容であることから参加者全員の理解を得ることができました。

社経担当 田中 正志

研修報告 救急蘇生研修

日時：令和3年10月30日(土) / 場所：マツダ病院

今年度はコロナの感染状況が落ちつき、2年ぶりに開催することが出来ました。受講者は19名で例年通り演習が中心の研修で行われました。5グループに分かれ、グループに1名のインストラクターが付き、講師・インストラクターの指導の下に成人一人法・二人法CPR、AEDを用いたCPRを実践しました。受講者の声から「自信がいった」、「現場で活かせる」、「チーム連携が大切」などがあり知識や技術を習得でき、学びの多い研修となりました。

教育担当 蔵永 敦子



研修報告 組織強化研修

日時：令和3年12月4日(土)

看護連盟活動と看護協会活動についての説明後、組織強化「認知症看護についての現状と課題～今、看護師に求められること～」が、太田川病院の認知症看護認定看護師である山本圭子先生を講師に迎え、開催されました。

コロナ禍で、東支部では久しぶりの対面研修となり非会員を含め36名に参加していただきました。研修では、認知症の基礎知識から、コロナ禍における認知症高齢者への影響、認知症に対する看護倫理まで幅広い内容を教えていただきました。倫理的センスを高め、尊厳を守るケアを推進できるように、本日の学びを実践していきたいと思えます。総務担当 大亀 彩子



看護研究のサポートをしています

1回目のサポートで看護研究の講義を受け、どのように研究に取り組みれば良いか参考になりました。コロナ禍で対面での指導が難しい状況でもWeb開催を活用し、先生から指導を受けることができてました。サポート以外の日でもメールで先生に相談することができ、スムーズに研究が進められています。

済生会広島病院 看護師 松浦 文恵

今年度、広島看護協会広島東支部看護研究サポートを受け看護研究を進めていきました。定期開催日以外にも講師の先生には何度もメールで助言を頂き、行き詰ることなく研究を進める事ができました。看護研究のサポートを受けることで、学びも深まり楽しく研究に取り組むことができます。ぜひ皆さんも参加してみてください。

マツダ病院 桐岡 佳江



教育担当 松下 桂子

**令和3年度 東支部看護研究発表会の開催は
書面開催となりました**

常設型「まちの保健室」の開催

人数を限定して10月・11月に開催いたしました。ついおろそかにしがちな自分自身の健康に目が向けられる機会になったという声が聞かれました。

副支部長 勝田



[発行日] 2022年2月発行

[発行所] 公益社団法人広島県看護協会 広島東支部
〒732-0052 広島市東区光町1丁目6-8 第二吉岡ビル 603号室
TEL/FAX:082-262-3524
E-mail: s-higashi@nruse-hiroshima.or.jp

[発行責任者] 堀江 玲子